
三百年後の夏蜜柑

ま～ちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三百年後の夏蜜柑

【Nコード】

N8541A

【作者名】

まぐちゃん

【あらすじ】

雨に祟られ、生まれてから一度も陽の下を歩くことのない六太。占いの老婆はそんな彼に祟りを払うために竜の住まう池へ赴けと言った。そこには三百年先の子孫の行いが関わっていた。

一・雨の夜の祠

この日、森の入り口に建つ祠の中では、年老いた女占い師が朱色の台に置かれた宝剣に鋭い眼差しを向けていた。

「何か見えますか」

刀を挟んで向かい合う少年が小声で言った。彼の名は六太。数え年十二の少年だった。六太は生まれてから一度も晴天の下を歩いたことがない。どんなに天気がよくても彼が外に踏み出すと、青空が雲に覆われ、やがて雨が降りだすのだった。この日も祠の外から静かな雨音が聞こえていた。

「竜神池が見えおる」

老婆が言った。

「竜神池……。そこに行けばおいらの祟りが解けるんですか」

六太は今、自分がなぜ雨の中しか歩けないのかを探し求めている。老婆が頷くと六太は会釈をして祠を出て行った。

二・三百年後の夏

この夏は雨が少なくテレビでは連日水不足が報じられていた。特に俊一が暮らす、山を切り開いて作られた新興住宅地一帯は被害が大きく、梅雨を過ぎてから全く雨が降らなかった。

「こうなったらあの池にごみを捨ててやるぜ」

俊一は地元の高校に通う青年だった。学業は優秀なのだが、少し短気な所があった。

近くには、竜が住むと言い伝わる小さな池がある。この池を汚すと、必ず大雨に祟られると言われていた。ならばと純一は、屑籠の

ゴミをコンビニの袋に詰め込むと竜神池に向かった。

三・六太と竜神池

六太が竜神池にやってきたのは占い婆の祠を出た翌日だった。雨に霞む竜神池の横には小さな社が建っていた。六太が近づくと社の陰から女性が現れた。年は六太より五つか六つ上だろう。神社に仕えているらしく、白い着物をまとっていた。

「やっと来ましたね。どうぞこちらへ」

六太を見るなり女性は手招きをした。面食らった六太だが、いわゆるまま彼女の後について、社へと入って行った。

四・俊一と竜神池

俊一はコンビニの袋（ゴミ袋）を手に意気込んで竜神池にやってきた。

「ん…？」

池の横には朽ちた社が建っていた。社の前には一本の老木が植わっている。老木には一つだけとても目立つ黄色い実がついていた。

俊一は不思議に思っ近づいて行った。

五・六太の祟り

社の中で女性は六太に言った。

「六太。あなたがなぜ雨に祟られているのか教えてあげましょう。あなたの七代先の子孫がこの池を穢すからです。さあ、子孫に手紙を書きなさい。文面は私が教えます」

女性はそう言う、六太に筆と紙を渡した。

「おいら何のことかさっぱりわからないんだけど」

「祟りから逃れたくないのですか」

とまどう六太だが、彼女の言葉を聞いて正直に従う事にした。

女性は書き終えた手紙を受け取ると、小さく畳んで赤い糸で結わえた。どこから取り出したのか大きな夏みかんに切れ目を入れ中に手紙を差し入れると六太に手渡した。

「これを社の前に埋めるのです」

六・三百年後の夏蜜柑

俊一が近づくと、それは大きな夏みかんだった。突然、夏みかんが木から落ち、俊一の足元に転がった。実は二つに割れていて、中に折り畳まれた紙のようなものが入っていた。驚いた俊一が恐る恐る拾い上げると、赤い糸で丁寧に結ばれた和紙だった。広げると次のように書かれていた。

我が子孫俊一へ

そなた竜神の池を穢そうとしておるな。それは許されぬこと。今すぐ心を改めこの場を立ち去るべし。

驚いた俊一は家へ走り帰っていった。

七・六太と龍神

「これであなたの呪いは晴れたわ」

六太が夏みかんを埋めると、今まで降っていた雨が上がり、真夏の日差しが照りつけてきた。

「いったいどういうことですか」

そういつて六太が振り向くと、女性の体が水煙に包まれ、竜の姿

が現れた。竜は空に駆け上がると身を翻し、真っ直ぐ竜神池の中に消えて行った。

「竜神だった……」

六太は口を大きく開けたままいつまでも真夏の日差しに輝く水面を見つめていた。

終わり

（後書き）

最後までお読みいただきありがとうございます。

今回初めての投稿となります。

推敲を重ねましたが、まだまだ文章力が足りず、読み返すたびに気になる箇所が出てきてしまっております。しかし、これにめげずに精進してゆきたいと思っております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8541a/>

三百年後の夏蜜柑

2011年1月16日06時50分発行